

京都教区時報

カトリック京都教区ザビエルネット/アクセスNo.075-467-1676 ゲストID:GUEST 通信速度:1200-28800bps 通信条件:N,8,1,X,N
e-mail catholic@mbox.kyoto-inet.or.jp Home Page http://web.kyoto-inet.or.jp/org/catholic/

7頁 MISAS EN:ENGLISH,PORTUGUES,ESPAÑOL.

第232号

田中司教認可
発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
編集用 TEL・FAX
0775-27-6800
(滝野)



3
1997

回

心

「かいしん」という言葉は、神の正しい信仰へ心を向ける場合、「回心」と書き、悪い心を改める場合、「改心」と書きます。

「回心」は、仏教用語では、「えしん」と読み、邪心を改めて仏の正道に帰依することを意味しています。

ところで、昔から覚悟を決めることを、「ほぞを固める」と言い、後悔することを、「ほぞをかむ」と言います。「ほぞ」は「へそ」の意味で、身体の中心にあるところから、いろんな言い回しに使われてきました。

外にあるもの求めることではなく、自分の中心にあるものに心を向けて見ましよう。何か大切なものが見つかるかもしれません。心を回して、自分の中心になにがあるかを見つめる期間としてこの四旬節を過ごしましょう。悪い心を改めるだけでなく、心を回して、自分の中心にある神に目を向けることが大切です。

写真は京都のまんなかにある「六角堂」のへそ石です。

隠れキリストンの信仰(一)

三 俣 俊 二

昨年十一月七日、唐崎メリノールハウスで開催された京都教区司祭全体集会で三俣俊二氏の講演がありました。演題は

「隠れキリストンの信仰」です。生月島の隠れキリストンを主題としての講演でしたが、教区全体にとって示唆に富んだ講演内容でしたので、氏に依頼してその時の講演要旨を頂きました。以下数回に分けて掲載致します。

ことで、私の個人的な体験を通じて考えたことをお話ししてみたいと思います。

● 埼目地区の決断

長崎県平戸島の離島生月(いきつき)島は隠れキリストンの里として有名で、私もこれまで数多く調査に訪れていますが、たまたま一九八三年に訪れたときには、大きな変化が起きました。埼目(さかいめ)という隠れキリストンの集落での出来事です。

この集落の焼山(やけやま)と

呼ばれる場所に、三つの宿(宿と

いうのは隠れキリストン組織の呼

称で、數十世帯からなる一種の小

教区のようなもの。その上に爺役

司祭のないまま信仰を守り続け、

そして今もつて教会から離れたま

ま、なおかつ彼ら独自の形で信仰

を保っている、いわゆる隠れキリ

シタンのことを学ぶのは、現在京

都教区の宣教司牧に携わる者にとって意味があるのではないかとの声

が司祭の中から出ているので、そ

のような希望に沿っての話が聞きたいたことでした。そのような



焼山の御堂(生月島埼目)

職のことであつて、個人としてではないのだから、この際、それをはつきりさせようということになつたらしいのです。当時、上宿(うわやど)の御番主は末永武雄

氏、中宿(なかやど)の御番主は橋本菊藏氏、下宿(したやど)の御番主は鳥山泰隆氏でした。鳥山

家保管の御神体は、長径約十一セ

ンチあまりの無原罪の聖母メアリ

ヨン(草津市矢橋で発見されたも

のと同形のもので、当時私はそれ

として容認されたと思われる状況

の中で、先に述べたように、最終

的には組織の決定に従つたとい

ことです。個人的な意向より、組

織としての全体の意向を尊重しよ

うとする考えがはつきり打ち出されています。

次に、埼目集落のなかでの、上

宿、中宿の動きです。後継者がな

いという行き詰った状態で、両

宿の人は、組織をそのまま自然消

す。御神体をいよいよ御堂に移す日にも、彼は溢れる涙をこらえることが出来ませんでした。

ところが、昨年二月鳥山氏を訪れてみると、事態には大きな変化が生じていました。上宿の御番主末永武雄氏も中宿の御番主橋本菊藏氏も他界し、それぞれの宿には後継者がいないということで、結局は両宿の面倒を下宿の鳥山氏にまとめて見て欲しいということになつたのだそうです。

この一部始終をつぶさに見て、私は非常に感動しました。

まず第一に、下宿御番主の鳥山

氏は、自分の家の納戸神として長

らく祭ってきた御神体である聖母

マリアのメダリヨンを、そのまま

自分が保管していくことを強硬に

主張すれば、それも仕方ないもの

として容認されたと思われる状況

の中では、先に述べたように、最終

的には組織の決定に従つたとい

ことです。個人的な意向より、組

織としての全体の意向を尊重しよ

うとする考えがはつきり打ち出されています。

滅させることもせず、また御堂建設時の多額の出費の自己負担分の返還を求めるわけでもなく、自分たちは後継者がいないので、宿の面倒を下宿で一緒にまとめて見て欲しいと、御堂も、持ち寄ったご神体も、すべて含めて、鳥山さんに一切を託したのです。組織の消滅も分裂もなく救われたことになります。ここで、私はなぜ生月の隠れキリストンの人々が、これまで迫害に耐え生き延びてきたか



鳥山氏と筆者

の疑問に対する一つの答えを見出だしたように思いました。

●組織の大切さ

各地における潜伏キリストンの

歴史を見るならば、組織を持たない集団が、短期間に崩壊していく経過をつぶさにうかがうことができます。迫害下に個人レベルで信仰を守ろうとしても、せいぜい御絵や御像その他の信心用品を地中や壁の中、屋根裏などに隠匿する程度にとどまり、本当の信仰はすぐに失われてしまいます。

浦上キリストンの例においても事態は同様です。中野郷の孫右衛門と七郎左衛門とは、各々ひそかに信仰を守っていましたが、このままでは信仰が駄目になってしまふと思い、漁の場で互いに信仰を打ち明け、力を合わせて地下組織を作りました。帳方、水方、聞役などの役職を決め、一糸乱れぬ組織によって村中が一枚岩となり、これが代々受け継がれて、二百五十年後のキリストンの復活に結びついたのでした。

信仰は、個人レベルの問題ではなく、信仰共同体を形成することによって育っていくものです。薪は一本では燃え続けないというわけです。信仰共同体は、正しい組織作りによって、確固としたものになり、成長していきます。

最初に述べたように、生月の場合にも、爺役のもとに各御番主が

合に、歴史を見るならば、組織を持たない集団が、短期間に崩壊していく経過をつぶさにうかがうことができます。迫害下に個人レベルで信仰を守ろうとしても、せいぜい御絵や御像その他の信心用品を地中や壁の中、屋根裏などに隠匿する程度にとどまり、本当の信仰はすぐに失われてしまいます。

浦上キリストンの例においても

事態は同様です。中野郷の孫右衛門と七郎左衛門とは、各々ひそかに信仰を守っていましたが、このままでは信仰が駄目になってしまふと思い、漁の場で互いに信仰を打ち明け、力を合わせて地下組織を作りました。帳方、水方、聞役などの役職を決め、一糸乱れぬ組織によって村中が一枚岩となり、これが代々受け継がれて、二百五十年後のキリストンの復活に結びついたのでした。

●活動を振り返る

現在のカトリック教会については、どうでしょうか。

すべての小教区が、司教の統率下、その意向に従って、速やかにかつ正確に対応して活動しているかどうかを振り返って見ることが必要でしょう。

修道会が司教の許可のもとに教区内に作った学校、病院、施設に

つくとも、今はや修道会で維持できなくなつた場合の処置については、二つに一つ、すなわちすつかり解散して白紙にもどしてから手を引くか、実質的な経営人事権を司教が掌握できる形にした上で教区に移管するかのどちらかであります。

今、隠れキリストンの集落の多くは、過疎化、あるいは役職後継者の不足ないしは欠如という問題で、滅亡の危機に立たされていますが、その中でも何とか生き延びていこうとするこの堺目地区の隠れキリストンの人々の動向には、多々学ぶべきものがあるようと思われます。(五月号につづく)



鳥山家伝来の御神体、無原罪の聖母マリアメダリヨン

殉教者に学ぶ

亀岡教会 山本 彰

亀岡・園部教会の二十一世纪に向かっての福音宣教計画の昨年のテーマは「先人を思い起こし、私達の信仰生活を反省しよう」でした。そして、具体的実行として「日本六聖人にちなんだ巡礼・講演会の実施」が決められ、その計画の一つに森司教(東京大司教区)の講演会を実施しました。テーマは「殉教」でした。その時の感想を以下に掲載致します。

●殉教を見つめる

「殉教について、今まで描いていたイメージをくずしてしまったかもしれません。」講話の初めのこの言葉は、聞く側の私たちをいきなり捕えてしまいました。そして充分に刺激を私たちに与えながら話は佳境へと…。秀吉がキリスト教に到る前、準備周到であった事。四つからなる詰問状に、充分な回答を示せなかつた当時の神父達。一部キリスト信者による寺院破壊。これらの話は、初めて知る事ばかりでした。「日本二十

六聖人」の事件を、このような切り口で語られ感じ取れたのは意外でした。不勉強から来るその新鮮さに驚かされ、知らずにいたことの恥ずかしさを覚えました。殉教を見つめるには、弾圧する側の事情をよく知ること。又、弾圧される人が何故それを受け入れ、信仰を保てたのかを探ること。キリストのすがたを見ること。このほか、多くの教えのうちに導かれ、実りある体験をできたことは感謝にたえません。

実は私たち兼任司牧共同体では、以前から森司教の講話を毎週聞いているのです。主日ミサの冒頭、当日の「みことば」を解りやすく、しかし、切り口するどく、テープを通して解説して下さっています。今回いわば旧知の方に再会出来るような喜びを私たちが感じたのは当然でした。そのような訳で、当日の講演に、私たちが時を忘れ、心から聞き入ったことは言うまでありません。

●記念行事の感動

「日本二十六聖人」の多くの記念行事は、聖人の靈性をして、私たち共同体にとって大きな糧となり、又、活力を受けたと思つてい

ます。私は「日本二十六聖人」のことをほとんど知らなかつた事になりました。不勉強から来るその新鮮さに驚かされ、知らずにいたことの恥ずかしさを覚えました。今回の記念行事は、そのような私にとつても画期的なことでした。おかげで信仰の故郷に帰れた想いです。記念ミサにも参加し、特に二十六本のあ

ります。私は「日本二十六聖人」のことをほとんど知らなかつた事になりました。不勉強から来るその新鮮さに驚かされ、知らずにいたことの恥ずかしさを覚えました。今回の記念行事は、そのような私にとつても画期的なことでした。おかげで信仰の故郷に帰れた想いです。記念ミサにも参加し、特に二十六本のあ

二十一世紀の福音宣教に向かって(3)

登美ヶ丘教会(奈良地区)

員だという自覚を持つ。

◆一九九六年のテーマ

教会をもつと身近なものにしてほしい。生活の場に教会がある

◆待降節黙想会のことばを実行する。

自分の教会、よその教会を巡礼し、他の教会の人と交流する。

◆一九九七年のテーマ

よう。

◆一九九九年のテーマ

教会をもつと身近なものにしてほしい。生活の場に教会がある

◆あなたの信仰とはの質問にい

う。自分の教会、よその教会を巡礼し、他の教会の人と交流する。

◆日々の生活の中で信仰はどう

生きているのか、分かち合っている。

◆カトリック要理や聖書の勉強をする。

教会をもつと身近なものにしてほしい。生活の場に教会がある

◆集まりには「召命の祈り」を唱える。

教会をもつと身近なものにしてほしい。生活の場に教会がある

◆一九九八年のテーマ

教会をもつと身近なものにしてほしい。生活の場に教会がある

◆わたしたちは教会共同体の一

う。教会をもつと身近なものにしてほしい。生活の場に教会がある

◆二〇〇〇年のテーマ

教会をもつと身近なものにしてほしい。生活の場に教会がある

◆聖体訪問をする。

教会をもつと身近なものにしてほしい。生活の場に教会がある

聖書講座から

聖書委員会主催の昨年の聖書講座のテーマは「聖書の物語・たとえ話にみる神のメッセージ」でした。よく知られている物語やたとえ話の中に思いもかけない深いメッセージが発見てきて、受講者の方々に喜んでいただけました。今回は特に、教会学校担当の方々に子どもたちに伝えるものを汲み取っていただき、参考になつたようです。

尚、今年のテーマは「イエスとは誰か—聖書が語るイエスの姿」です。案内は四月号に掲載します。

神のメッセージ

奈良教会 阿部千恵子

『わたしは口を開いてたとえを用い、天地創造の時から隠されていたことを告げる。』(マタイ十三章三十五節)

「人間に期待されていることは唯一つ、イエス・キリストを見ようとしたことで、善行ではない。」

「たとえの全部は、わたくしたちの現実だ。自分が見えてくることが決定的である。自分ひとりはどうしようもないとの自分の限

界の認識、これが渴き欠乏として自分のなかにひびいてくるから、見えてくることが決定的である。」

以上のとてばは講師の方々が、たとえの本質的意味あいについて端的にお示しになつたことばである。

かねてから、私にとって福音のたとえは核心にとどくことのできない、あるもどかしさをもつはなしであった。

この度、たとえと自分との関係のもち方に本質的なずれがあつたことを気付かせて頂いた。何時の場合もそうなのだけれど、福音の本質的な関係とは、神の眺めのなかに自分を位置づけて見る、神に照らして頂く場にそつと自分を置くことなのだと思う。イエスのひびきに共鳴してゆくことなのだと思う。

『良い土の中の種の場合は、正しい、良い心をもつてみことばを聞き、これを固く保ち、辛抱して実を結ぶ人々のことである。』

(ルカ八章十五節)

びきが聞きとれないと倫理的、道徳的に受けとめて、自己嫌悪におちいったり、現実的自己認識に欠ける受けとめ方をしてしまうおそれがあるんではないだろうか。ひとりの人間のなかには、道ばた、岩地、いばら、そして良い土として育つべく、イエス御自身がたえまなく私たちのうちにいて、耕してくださいつて、育ててくださっている土を中心核に、円的な層が形成されている内の現実が在るのだと思う。十字架の御前に立て自分でいたなさ、みじめさに打ち砕かれ、碎け散った自分の現実をかかえながら、それでも種を植えられた土として、自分のなかの核において、良い土として育つことを祈つてくださっているイエス、耕してくださっているイエス。そのイエスに賭けて生きてゆきたい。

また、育てて頂く、その時を深く味わい、育ててくださる為に、たえまなく新たに来てくださるイエスを待ち望みたい。

この出会いの場は、大変貴重なものとして私の心の力と光になつたような気がします。

聖書を深く味わう事によつて、神の愛と計らいを知る事が出来るという事をわからせていただきました。

神の愛

大津教会 平岡ひとみ

創世記から始まり、人間の罪の深さ、神の愛、各時代の背景、社会、生活などを知つていくうちに、なぜか自分がその時々に生きているような感じを受けた事があります。

それが、今も送られている神からのメッセージなのかもしれません。

各主人公の姿もなぜか、自身の生き方考え方によつて似ている所もあり、話を聞きながら、日々の生活を振り返る事もあります。

そんな中で、各講座の終わりに必ず感じた事は、さまざま、神の姿、キリストの姿に出会えていたという事です。そして、私達と共に今も生きていてくださる愛を感じました。

この出会いの場は、大変貴重なものとして私の心の力と光になつたような気がします。

更に願わくは、自分のなかに隠れておられるイエスを、そつと人々にお運びするひとでありたい。

そういうことを深みにおいて、思いめぐらせて頂くこの日頃である。

お
知
ら
せ

- ◆部落問題委員会春季合宿 16日。兼六荘(金沢市) 12時30分集合。参加費＝八千円(個人参加)、一万円(団体援助のある方)。申込締切5日。
- 連絡 075(223)2291
- 北陸における被差別部落の状況を、石川県金沢市の現地の方々のご協力をえて学びたいと思っております。今回は特に、「現地」とは何かを学ぶときだと考えています。
- より深い学習ができるのを確信しながら、ご案内申しあげます。

三重研宗館の行事

- ◆暮らしの中のカウンセリング 毎月曜日 10時～12時
- ◆韓国語講座 每木曜日 10時～12時
- ◆茶道教室 每木曜日 13時～15時
- ◆自然治癒力健康法温熱療法 毎金曜日 11時～13時
- ◆A A 每土曜日 18時～20時

- ◆奈良地区の行事
- ◆黙想会 2日。奈良教会。指導＝柏谷甲一師

◆県協議会 16日 14時～16時。大和八木教会

滋賀地区の行事

- ◆黙想会 15日 13時30分。フランシス会
- ◆堅信合宿 1日～2日。草津教会
- ◆中学生エンカウンター 23日～25日。草津教会
- ◆京都北部地区の行事

- ◆黙想会 15日 19時30分～16日 14時30分。西鶴教会。指導＝瀬戸高志師(レデンプトール会)
- ◆京都南部地区の行事

- ◆朝禱会 每火曜日 7時～8時。夕禱会 第2月曜日 6時30分～ミサ後～19時。河原町教会。食事及び雑費＝三百円。事務局 075(751)2337
- ◆グレゴリオ聖歌を一緒に歌いましょう 每土曜日 19時。高野教会。連絡 075(781)1245川原
- ◆長岡幼稚園カーデラル詣り 6日

西院カトリック会館行事

- ◆祝祭日休館。日曜日 18時閉館
- ◆音センターオーテンとさんの会 每火曜日 13時～16時30分。会費＝二百円
- ◆SVP例会 9日 河原町教会
- ◆あさぎり会(御老人の会) 11日 10時30分～ミサ・ロザリオ・会食。会費＝五百円。宇治教会
- ◆信睦二金会 14日。西陣教会

◆在世フランシスコ会京都兄弟会例会 16日 13時30分。フランシスコの家

河原町カトリック会館行事

- ◆洛星中学校卒業式 17日
- ◆SVP京都中央理事会 23日。
- ◆納骨堂合同祈念日 23日。西陣教会
- ◆糠みその会 20日。九条教会
- ◆子羊会復活祭 30日。高野教会
- ◆聖書深読セミナー 4月5日 17時30分～6日 15時。カルメル会宇治黙想の家。指導＝奥村一郎師。五千五百円。聖書・筆記用具持参。申込 3月29日まで 075(821)0239谷口(19時以降)
- ◆京都マック野外研修会
- ◆京都神トリーク混声合唱団 9日 14時。22日 19時
- ◆レジオ・マリエ京都コミチウム 7日 19時
- ◆宣教司牧評議会事務局会議 2日 13時受付。13時30分～15時
- ◆京都カトリック混声合唱団 16日 12時30分
- ◆一万匹の蟻 19日 19時
- ◆Srドローレスの聖書講座 21日 10時30分
- ◆キリスト研究会 23日 14時
- ◆室内楽・トリオコンサート 4月20日 14時。北白川教会
- ◆聖書委員会
- ◆聖書講演会 7月6日(河原町教会地下)
- ◆おでんとさんの会 每火曜日 13時～16時30分。会費＝二百円
- ◆聖書研究と手話の勉強 每木曜日 19時30分
- ◆Srアスンタの書道教室 每金曜日 13時30分。月謝三千円
- ◆柳本神父の聖書講座 5日 10時半。テーマ＝東海道。資料代五百円
- ◆アシア交流委員会
- ◆バングラデイシユより訪問 今実施予定
- ◆同じ講師の聖書講演会を津でも
- ▼バングラデイシユ派遣 来年3月に変更

あんてな ((((()))))

研宗館で『三重青年のつどい』が行われました。十四日は夜の七時から始まり自己紹介ゲーム遊びなどをして、後は、雑談を楽しみました。十五日は朝食で始まり、「わかつちあい」、「ピクニック」、御ミサをしました。

『わかつちあい』のテーマは、前日の雑談のときに決めたのですが、「優しい神様」でした。そして御ミサでの福音、説教の話は『放蕩息子』の話でした。部分参加でも歓迎と呼び掛けたところ、部分参加者が十一名、全参加が八名でした。その数とみんなの性格はすごく家庭的な雰囲気をかもしだし、それはこの合宿を実りある集いとしてくれました。ここで参加者の感想を書きます。

千葉あゆみ「お昼、お弁当を持って見に行つた海、寒かったけど、心の中は二日間の、みんなとのおしゃべりで十分温まっていました」。

稻地哲「青年会の横断的な組織があることを知らなかつた。新しい出会いがありとても楽しかつた」。

有地陽子「ゲーム遊びで童心に返つておもしろかったです」。

三重『青年のつどい』の後で

去る一月十四日(十五日に津研宗館で『三重青年のつどい』が行われました。十四日は夜の七時から始まり自己紹介ゲーム遊びなどをして、後は、雑談を楽しみました。十五日は朝食で始まり、「わかつちあい」、「ピクニック」、御ミサをしました。

『わかつちあい』のテーマは、前日の雑談のときに決めたのですが、「優しい神様」でした。そして御ミサでの福音、説教の話は『放蕩息子』の話でした。部分参加でも歓迎と呼び掛けたところ、部分参加者が十一名、全参加が八名でした。その数とみんなの性格はすごく家庭的な雰囲気をかもしだし、それはこの合宿を実りある集いとしてくれました。ここで参加者の感想を書きます。

高木元子「いろんな人に出来ました。みんな忙しそうなのが少し残念でした」。

吉田弥生「私はほんの三、四時間しか参加できませんでしたが、三重の青年会も九七年からは発展していくと感じました」。

有地竜吉「もっと若者が前にでるべきだ!」三重の青年もこれを機に活気付けていこう!」。

山川喜大「私はみんなの普段考えていること、悩みとか聞けて自分にとっても参考になつたし、自分自身勇気付けられた」。

鶴山進栄「みんなの普段考えていること、悩みとか聞けて自分にとっても参考になつたし、自分自身勇気付けられた」。

ネリグ神父「明るい青年グループだった。いろんな教会から集まって、でも自由に話し合える感じで、大変雰囲気が良かつた。みんなと一緒にミサを捧げたことも良かった。また、いろんな面白いことをしましよう!!」。

小黒順子「みんなに逢えて嬉しかった。また、みんなに逢えるのを楽しみにしています」。

(四日市教会
伊藤伸夫)

((((())))) あんてな

外国語ミサ

●MASS IN ENGLISH (英語ミサ)

*SHIN-AI KINDERGARTEN

～PAG-ASA COMMUNITY

Every Sunday 3 p.m.

*Franciscan house

Every Wednesday 4 p.m.

*NISHI-MAIZURU church

The first Sunday of the month 3 p.m.

*KUSATSU church

The fourth Sunday of the month 2 p.m.

*NARA church

The last Sunday of the month 2 p.m.

*YAGI church

The third Sunday of the month 2 p.m.

*TSU church

The second Sunday of the month 2 p.m.

*MATSUZAKA church

The first Sunday of the month 3:30 p.m.

*YOKKAICHI church

The second Sunday of the month 4 p.m.

*SUZUKA church

The fourth Sunday of the month 2 p.m.

●MISSA EN PORTUGUES (ポルトガル語ミサ)

*Igreja paroquial de KUSATSU

Segundo domingo do mes tarde 15 horas

●MISA EN ESPAÑOL (スペイン語ミサ)

*Iglesia de FUSHIMI

Segundo Domingo del mes a las 2 de la tarde

*Iglesia de KUSATSU

Primer y tercer Domingo del mes a las 2:30 de la tarde

*Iglesia de YAGI

Primer Domingo del mes a las 2 de la tarde

*Iglesia de NISHI-YAMATO

Segundo Domingo del mes a las 3 de la tarde

*Iglesia de SUZUKA

Segundo Domingo del mes a las 2 de la tarde

●한국어 미사 (韓国語ミサ)

*Kyoto Corian・カトリックセンター

第1日曜日 午前10時

教区スケジュール

3月	6日 (木) 司祭評議会
8日 (土) 聖体奉仕者学習会 (河原町会館)	8日 (土) 聖体奉仕者学習会 (河原町会館)
13日 (木) 司教顧問会	13日 (木) 司教顧問会
18日 (火) カトリック会理理事会	18日 (火) カトリック会理理事会
23日 (日) カトリック書道・田中司教参加	23日 (日) カトリック書道・田中司教参加
24日 (月) カトリック幼稚園連盟研修会	24日 (月) カトリック幼稚園連盟研修会
24日～26日 小学生侍者合宿	24日～26日 小学生侍者合宿
26日 (水) 聖香油ミサ・司祭集会	26日 (水) 聖香油ミサ・司祭集会
27日 (木) 聖木曜日	27日 (木) 聖木曜日
28日 (金) 聖金曜日	28日 (金) 聖金曜日
29日 (土) 聖土曜日・復活徹夜祭	29日 (土) 聖土曜日・復活徹夜祭
30日 (日) 復活祭	30日 (日) 復活祭
予定△京都教区高校生会合宿	予定△京都教区高校生会合宿
▽京都教区中学生会合宿	▽京都教区中学生会合宿

お知らせ

◆聖香油ミサのお知らせ
今年は聖水曜日の26日11時30分より、河原町教会において聖香油ミサを行ないます。このミサの中でも、洗礼・堅信の秘跡で使われる聖香油、洗礼志願者のための油、病者の塗油の秘跡で使われる油の

祝福があります。

◆宣教司牧評議会の報告

昨年12月7日～8日に開かれた会議において、田中司教からの諮問事項である宣教司牧評議会の改組にに関して話し合われました。来年一月に発足が予定されています教区協議会は、信徒・修道者・司祭が審議し、決定し、実行する機関となりますので、宣教司牧評議会の役割、構成などをどのようにするか検討されました。この件については、今年も引き続き検討され、充分に話し合って田中司教に答申される予定です。

◆日本二十六聖人殉教四百年記念演奏会

19日 18時30分。京都コンサートホール。管弦楽=京都市交響楽団。指揮=黒岩英臣。曲目=本田周司/コンボジション第2番、モーツアルト/交響曲第39番、本田周司/交響的序曲「長崎への道」第3番。主催=長崎への道へ二十六聖人足跡・京都→長崎千キロメートルを歩く巡礼の集い。協賛=カトリック京都司教区。S席=四千五百円。A席=三千五百円。チケット取扱所=京都コンサートホール075（771）3231。長崎への道事務局（郵便振替口座00920の2の6671）へ振込にて申込

可。

◆日本二十六聖人殉教四百年記念講演会

20日 9時30分受付～16時解散。

フランシスコの家。演題=キリストン殉教の歴史的背景。講師=石井健吾師。対象=全フランシスコン家族会員、全信徒、関心を寄せる全ての人。参加費=五百円。弁当各自持参。主催=フランシスコ会京都兄弟会。

コ会京都兄弟会

◆青年セントラル休館日

1日、4日、11日、15日、18日、20日、25日、29日

◆「一万匹の蠍運動」基金報告

累計14,349,670円

加入者 857名

（1月22日現在）

◆「一万匹の蠍運動」基金報告

五月五日。河原町教会。入場券

1千円（中学生以下無料）。収益

リオ

金は長崎の記念館へ寄付します。

◆日本二十六聖人を讃えるオラトリオ

五月五日。河原町教会。入場券

1千円（中学生以下無料）。収益

主催=宇治教会

このたび、日本二十六聖人殉教

四百年を記念して、聖人を保護に

仰ぐ宇治教会では、七年前より演

じて参りましたオラトリオを、京

都カトリック混声合唱団の協力を

得て、実演する事になりました。

三月に入り、合同の練習も始まり

ます。一緒に歌い、日本二十六聖

人を讃えませんか。ボスターを参

照の上参加下さい。お待ちしてい

ます。連絡=オラトリオ実行委員

会0774-417294柴田、

会0775-492075（4592）45

45中西

◆聖書講演会「詩編40」

講師=奥村一郎師。13日10時～

12時。西院会館。七百円。主催=

福音センター

◆青年セントラルよりお知らせ

6月に奈良で『京都教区青年のつどい』LOOK AT ME in奈良』を企画中です。二〇〇〇

年の聖年にむけて、今年も京都教

区の青年もがんばりましょう!!

◆青年セントラル休館日

1日、4日、11日、15日、18日、

◆「一万匹の蠍運動」基金報告

累計14,349,670円

加入者 857名

（1月22日現在）

◆編集部よりお知らせ

お知らせに載せたい行事の情報

は、4月号でしたら3月3日まで

に、5月号でしたら3月31日まで

に、FAX 0775-2768

052-971-4343

075-864-4343

0742-351000

052-971-4343

075-864-4343

0742-351000

052-971-4343

075-864-4343

075-864-4343

075-864-4343

075-864-4343

075-864-4343

075-864-4343